

一人暮らしの高齢者に対する見守り活動に  
関する調査

結果報告書

令和5年7月

総務省行政評価局



## 前 書 き

我が国における 65 歳以上人口の割合が 3 割に達しようかという現在、高齢者を見守る環境、特に担い手に関する状況は厳しいものに変化してきている。

また、昭和 50 年には我が国の 16.9%の世帯が三世帯世帯であった<sup>1</sup>ところ、令和 3 年には 4.9%と大きく減少<sup>2</sup>しており、裏返しとして高齢者の単独世帯が増加している。

今回の調査では、こうした状況を踏まえ、継続的な見守りが特に必要と思われる一人暮らしの高齢者に対する見守り活動について、現場である地方公共団体や社会福祉協議会等に対するヒアリングや書面調査を行った。その結果、従来家庭を中心とした主体が担ってきた高齢者の見守りについて、地域包括支援センターや民生委員等が主体となって担う状況もみられるようになっており、地域による見守り活動の重要性が増しているが、そのような特定の主体による活動だけでは、高齢者の見守り活動にも支障が生じてきている実態が明らかとなった。くわえて、令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、従来取り組まれてきた高齢者の見守り活動に制約が生じている状況が判明し、見守り活動における更なる工夫が必要となっている状況も明らかとなった。

このような厳しい状況の中でも、高齢者の見守り活動の重要性はどの地方公共団体も認識しており、地域で必要な見守り活動の「量」と「質」を確保するために、知恵を絞り活動している実態が明らかとなった。

今回調査対象とした地方公共団体の人口規模、高齢化率、財政力の状況、それらを踏まえた見守り活動の内容には当然のことながら差異はあるものの、本調査で明らかとなったこのような工夫した取組については、ほかの主体にも役に立つものであり、今後の高齢者の見守り活動の参考にしていただきたいと願うものである。

---

<sup>1</sup> 厚生省「昭和 50 年厚生行政基礎調査」による。

<sup>2</sup> 厚生労働省「令和 3 年国民生活基礎調査」による。



## 目 次

第1 調査の目的等 .....	1
第2 見守り活動をめぐる状況 .....	2
1 高齢者人口、高齢化率等の推移.....	2
2 一人暮らしの高齢者数及び高齢者率の推移.....	2
3 一人暮らしの高齢者の生活実態.....	2
第3 調査結果 .....	4
1 見守り活動の実態.....	5
2 感染症の感染拡大後における取組内容の変化.....	7
3 まとめ.....	9
事例集.....	12
参考資料.....	67